

ご 挨拶

金沢 YMCA 理事長 朝倉 秀之

金沢 YMCA は、今年 2016 年に創立 70 周年を迎えました。本当に喜ばしいことです。その歴史を振り返りますと、歴代の理事や主事の皆さんが協力してこの金沢 YMCA を作りあげてくださったことを知ります。混乱の中にあった社会情勢のもとで、その苦労たるや並大抵のことではなかったでしょう。広瀬道次郎氏は敗戦直後、生きる目標を失った青年を見て YMCA を作ろうと、自分の所属する金沢教会の上河原雄吉牧師に相談して、三浦孝次氏とともに“キリストに青年を導く架け橋”となる YMCA を作ることを考えました。これに共鳴した福音館書店主の佐藤喜一氏、梅光会主事の村田隆氏、中国から引き揚げてきた野島進氏を加えて発起人会を作り、日本 YMCA 同盟初代総主事の高山章氏や同盟関西担当主事の奈良伝氏による助言を受けて金沢基督教青年会（金沢 YMCA）を創立。それが 1946 年 9 月 8 日のことでした。その後も、青少年に対してはいつも夢と希望を与える事業を行なってきました。しかし、長い歴史の中にあって辛い経験もしてきているのです。



この創立 70 周年記念式典を締めくくりとするのではなく、次の金沢 YMCA の 100 年へと繋がる出発点としなければならないと思っております。これからもご支援、ご鞭撻のほどをお願い申し上げます次第です。

祝辞 金沢YMCA創立70周年を祝して

日本YMCA同盟総主事 島田 茂

金沢YMCA創立70周年おめでとうございます。金沢YMCAは、終戦から一年たった1946年8月に東山荘で開催された緊急主事会において、復興三か年計画策定に参画した高山章初代総主事の熱い思いと、金沢における広瀬道次郎氏を中心とする設立運動とがあいまって結成されました。緊急理事会での復興三か年計画案には、「恒久平和の建設」を使命として、主に以下の七つの事柄を上げています。



1. キリストの愛、特に隣人愛を高唱し、全国一斉に「聖書を読む運動」を展開する。
2. 全国の中小都市にYMCAの設立を促進する。
3. 全人教育事業を強化する。
4. 学生及び少年事業を振興する。
5. 農村問題研究委員会を再興し、農村への進出を期す。
6. 国際友好の協力運動を推進する。
7. 主事の再教育及び養成機関を設立する。

大阪YMCAの主事であった高山章は、1943年に日本YMCA同盟大陸派遣主事として南京に赴任し、主に難民の救済事業に従事したのち、1946年2月に帰国し、直ちに金沢YMCA創立のために金沢に赴任したとあります。南京での派遣を経験した高山主事は、おそらく燃えるような思いで必死にYMCAを創立したのだと想像されます。47年4月に発行されたYMCAニュースでは、全国で10の都市YMCAが記載され、その中で戦後最初に創立されたYMCAとしては、金沢YMCAのみが記載されています。

日本は、この70年間の歴史の中で、東日本大震災、今年の熊本地震など多くの災害を経験し、今、若者は、いじめ、不登校、ひきこもり、貧困、自死の問題など多くの課題を抱えています。物質的な豊かさを追求し、復興を遂げても、人々の心は貧しさを増しています。YMCAに課せられている使命は、戦後の復興三か年計画で決意された事柄と変わらないと思います。

金沢YMCAが創立100周年に向けて、これから更に地域の青少年の全人的な成長のために、創立時の使命に立ち、教会、ワイズメンズクラブ、行政や他の市民団体との協働で活動を発展されることを切に願い、お祈りいたします。

祝辞 とこしえの希望に燃えて

富山 YMCA 総主事 松田 誠一

金沢 YMCA 創立 70 周年おめでとうございます。北陸の地において YMCA 運動の火を絶やすことなく引き継がれ、支えてきてくださった朝倉理事長はじめ会員の皆様に敬意を表し、心より感謝申し上げます。

さて、5 年前に熊本から富山に赴任して来た私にとって、YMCA においては別格ではありますが、熊本 YMCA の最初の主事となり、その後、金沢の主事となった淵田多穂理氏の存在には共感するところがあります。先日ご逝去された星野達雄さんの著書『とこしえの希望に燃えて』をあらためて読み直してみますと、全国の先駆的指導者として活躍された人物であることが理解できます。満州鉄道の役員、北京 YMCA の理事としての輝かしい経歴を持ちながら、敗戦を迎え、すべてを失くし故郷の熊本人吉に戻り、一家 4 人を養うために電気工事店を開きます。その後、熊本 YMCA の最初の主事となり、設立当時の財政的基盤をつくるために自転車で会員獲得に奔走したと言われます。給与も、51 歳でありながら当時の大卒初任給より安く、それも確約されたものではなく自らの働きに任されたものでした。厳しい生活ではありますが、大変な仕事と責任を負う中で、彼は今もなお全国で愛されている「YMCA の歌」の作詞をし、また熊本においては、らい病患者のための恵風園 YMCA を設立します。その素晴らしい働きは D. リーパー氏によって世界に紹介されました。その後、酒井哲雄氏のあとを引き継ぎ、金沢に赴任し金沢 YMCA を財団法人として立ちあげ、エスペラントの普及運動や青少年の禁煙活動にも尽力してきました。

その時代において、指導者は何を見据えて生きるか、その生き方によって周りに影響を与え、大きな動きとなり YMCA 運動となり、その歴史を刻むこととなります。その人自身が YMCA と言われる所以です。「あなたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたを選んだ」といわれるように神様によって選ばれた私たちは、YMCA の使命を担っていかなくてはなりません。たとえ小さな働きであっても、神様は大きな喜びと祝福を与えてくださることを信じ、創立 100 年を目指して共に北陸における YMCA 運動を引き継いで行きましょう。70 周年おめでとうございます。



金沢 YMCA 歴代理事長・主事・主事補

歴代理事長	在任期間
第1代理事長：三浦 孝次	1946(昭和 21)年～1952(昭和 27)年
第2代理事長：番匠 鐵雄	1952(昭和 27)年～1970(昭和 45)年
第3代理事長：三浦 孝次	1970(昭和 45)年～1971(昭和 05)年
第4代理事長：成瀬 泰市	1971(昭和 46)年～1972(昭和 47)年
第5代理事長：小笠原 昭二	1972(昭和 47)年～1974(昭和 49)年
第6代理事長：中井 理章	1974(昭和 49)年～1975(昭和 50)年
第7代理事長：千葉 正一	1975(昭和 50)年～1990(平成 02)年
第8代理事長：菊池 秀三	1990(平成 02)年～2002(平成 14)年
第9代理事長：井上 良彦	2002(平成 14)年～2007(平成 19)年
第10代理事長：朝倉 秀之	2007(平成 19)年～2016(平成 28)年現在

歴代主事・主事補	在任期間
第1代主事：高山 章	1946(昭和 21)年～1949(昭和 24)年
第2代主事：駒木 根節也	1949(昭和 24)年～1951(昭和 26)年
第3代主事：瓜生 菊雄	1951(昭和 26)年～1953(昭和 28)年
第4代主事：酒井 哲雄	1953(昭和 28)年～1954(昭和 29)年
第5代主事：淵田 多穂理	1954(昭和 29)年～1958(昭和 33)年
第6代主事：瓜生 菊雄	1958(昭和 33)年～1964(昭和 39)年
主事補：羽鳥 直之	1959(昭和 34)年～1960(昭和 35)年
第7代主事：羽鳥 直之	1960(昭和 35)年～1963(昭和 38)年
主事補：小関 泰之	1961(昭和 36)年～1963(昭和 38)年
第8代総主事：高山 章	1966(昭和 41)年～1967(昭和 42)年
主事補：谷川 哲夫	1963(昭和 38)年～1967(昭和 42)年
第9代総主事：谷川 哲夫	1967(昭和 42)年～1969(昭和 44)年
主事補：高野 敢	1967(昭和 42)年～1968(昭和 43)年
第10代総主事：笠井 康助	1969(昭和 44)年～1971(昭和 46)年
主事補：中条 薫	1971(昭和 46)年～1972(昭和 47)年 (総務)
主事補：丹羽 み津子	1971(昭和 46)年～1972(昭和 47)年 (少年部)
主事補：上関 和夫	1971(昭和 46)年～1972(昭和 47)年 (少年体育部)
第11代総主事代行：吉川 虎	1972(昭和 47)年～1973(昭和 48)年 (全般)
主事補：中条 薫	1972(昭和 47)年～1973(昭和 48)年 (総務)
主事補：丹羽 み津子	1972(昭和 47)年～1973(昭和 48)年 (少年部)
主事補：上関 和夫	1972(昭和 47)年～1973(昭和 48)年 (少年体育部)
第12代主事：上関 和夫	1989(平成 01)年～1994(平成 06)年